

このような理解にたつて、学校教育目標の学年への具体化は、実際にどのような状態であろうか、実態調査によれば次のような結果になる。

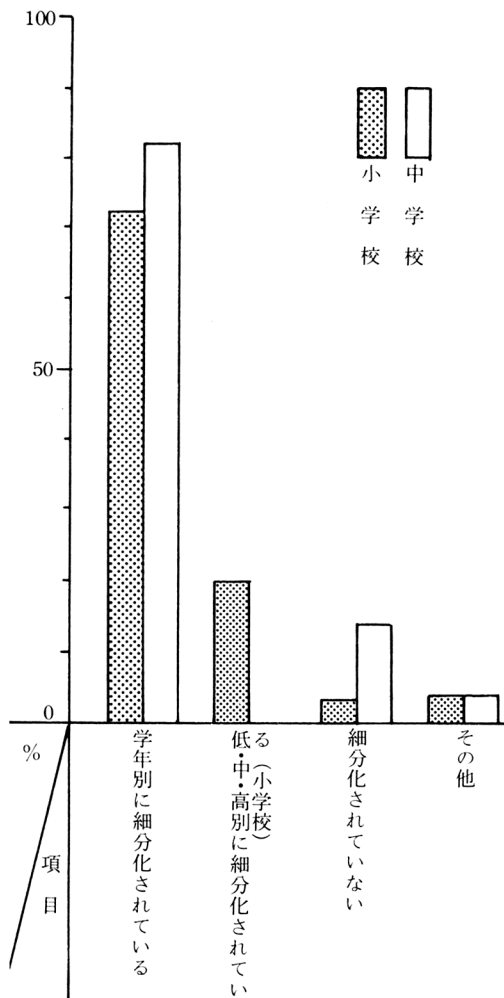


図11-1 学校教育目標の学年への位置づけ

「その他」の内容としては、

- 学年目標ではなく、指導の重点としてとらえている。
  - 学校教育目標の中より年度別に重点をきめている。
- などがあげられる。
- さらに、図11-1の結果を学校規模別にみてもみる。

表11-2 学校規模別にみた学校教育目標の学年への位置づけ

項目 学校 型	学年別に細分化されている		低・中・高学年に細分化されている		細分化されていない		その他	
	小	中	小	中	小	中	小	中
a 型	78%	83%	17%		5%	16%	0%	1%
b 型	67	80	24		6	16	3	4
c 型	68	77	21		9	8	2	15
d 型	100	100	0		0	0	0	0

上の表をみて分かるようにd型では、小・中学校ともに、学校教育目標は全ての学校が学年に細分化している。

## 12. 校長が学年主任に望む職務

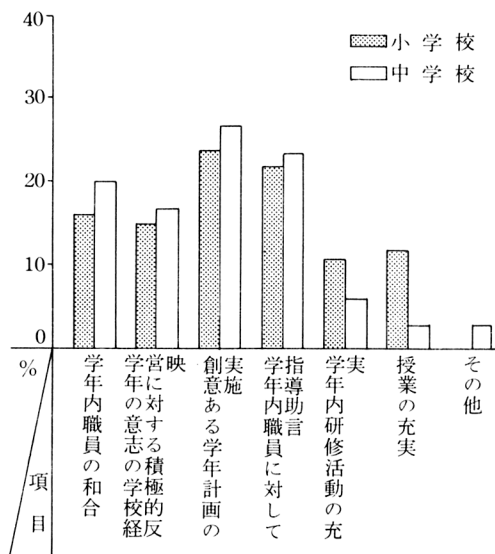


図12 校長が学年主任に望む職務

上の図の結果をみても分かるように、学年主任に対して期待されているものは非常に多く、また広いものがある。学年経営が学校経営上重要な位置をしめているがために、学年主任にかけられている期待もまた大きいわけである。

図12で示されているごとく、各項目について小・中学校とも特に大きく差のあるものはない。そして、各項目ともその頻度数も大体平均しているとみてもよい。ただし、それを学校規模別にみた場合、若干の相違が現れている。

- 小学校の大規模校において第1位を占めているのは「学年内職員の和合」であり、(29%)、第2位は「学年の意志の学校経営への積極的反映」(24%)となっている。